

すぎなみ大人塾・だがしや楽校福まつり 春よ来い！遊んで学んであたたか絆！

日時：平成23年1月30日(日) 午前10時～午後1時

会場：かふえ&ホール WITH 遊 (杉並区荻窪3-46-13 TEL:6661-2336)

主 催：杉並区教育委員会

企画運営：2010年度すぎなみ大人塾昼コース受講生

《はじめに》

“すぎなみ大人塾・だがしや楽校福まつり”が、2011年1月30日、東京都杉並区にある“かふえ&ホール WITH 遊”にて開かれました。

社会教育の年間講座として、全国の“だがしや楽校”仲間にもすっかりお馴染みになった“すぎなみ大人塾”は、“だがしや楽校”を社会教育のツールとして活用した先駆的存在でもあり、全国の“だがしや楽校”仲間との交流も頻繁に展開しております。

“すぎなみ大人塾”は、自分の可能性に気づき、ネットワークを深め、自主ゼミを開くなど社会に発信し、みんなで新しい地域づくりをしていこう！と《放課後》的に自由な発想を育む学習の場で、昼コースと夜のコースがあります。その内、昼コースのテーマが“だがしや楽校”を開こう！～持ち味のおすそ分けと語りあいが未来を拓く！“です。

“だがしや楽校”が“すぎなみ大人塾”のテーマになったのは、平成21年度からであり、今年度（平成22年度）は2年目です。

1年目は、1年間の学習を通して様々なことを学び、2009年11月7日には“だがしや楽校 in 妙法寺”を開きました。そして、“「縁育て」の楽校 ～みんなが輝く生涯学習実践記～”（すぎなみ大人塾だがしや楽校編集委員会編 2010年 日本地域社会研究所）を発行しました。

2年目の今年度は、雑多で活気のある地域のたまり場となってきた駄菓子屋の意味合いを現代風にアレンジした“だがしや楽校”という集いの場を開くことを通して、自分の中に新たな人と人とのつながりを広げていく手法を学ぶことを趣旨とし、参加した仲間同士や学習支援者と語りあいながら、自分の「持ち味」を発見し、それを「自分みせ(店・見せ)」を通して社会の中で発信することを目指しました。

学習支援者は松田道雄さん（高千穂大学教授・着想家）、学習支援補助者は谷原博子さん（フリーアナウンサー・地域コーディネーター）です。

また、事務局は、社会教育センターの中曾根さん・山内さん・川上さんです。

昼・夜合同講座の後、昼コース・第1回目は6月18日に開きました。

カリキュラム内容ですが、1～2回は「聞いて理解」と題して、だがしや楽校を理解し、そのために“「縁育て」の楽校”の本を読み合いました。

3～6回は「活動してみる」と題して、みせあう体験から、まち歩きを通して、「ミニだがしや楽校を開こう」まで行いました。

7～12回は「他地域との交流計画」と題して、「交流だがしや楽校」を行いました。この時期、新潟市（旧巻町）、会津坂下町（金上いなほ祭り）、横浜市都筑区（つづき楽校）に遠征し、おみせを出したり、交流を深め合ったりしました。新潟市と会津坂下町では、南陽志立だがしや楽校の人たちとも交流しました。

13～14回は「地域をみつめる」と題して、杉並コミュニティマップを作りました。

15～16回は「活動を深める」と題して、いよいよ“だがしや楽校”を開くための計画から準備を行いました。

そして、きょうの“すぎなみ大人塾・だがしや楽校福まつり”を迎えました。

このあとの17～18回は「ふりかえり」と題して、「自分みせを進化させると」や「杉並コミュニティの発芽は？」をテーマに話し合いながら1年間の講座を締め括る予定です。

それでは“すぎなみ大人塾・だがしや楽校福まつり”の模様をお伝えしましょう。



2011年1月30日（日曜日）東京の天気：晴れのち曇り

【すぎなみ大人塾・だがしや楽校福まつり】

きょうの“すぎなみ大人塾・だがしや楽校福まつり”の場所は、“かふえ&ホール WITH 遊”というお店です。全国各地の“だがしや楽校”を取材している筆者（山口：だがしや楽校コーディネーター）ですが、カフェという店舗での“集い型だがしや楽校”は初めてです。どんな“だがしや楽校”になるのか興味津々です。

“かふえ&ホール WITH 遊”は青梅街道沿いにある小さなカフェです。JR 荻窪駅から南南東へ約700mです。以前はこの場所で銭湯を営んでいた田辺さんが、2008年5月にオープンさせたものです。（写真の左下に見えます）



「地域に根ざしたコミュニティの場」というコンセプトである“かふえ&ホール WITH 遊”は、店舗内だけでなく店舗前のスペースも、花と緑に囲まれてゆったり出来るカフェになっています。また、店舗奥のホールは、多目的ホールです。音楽ライブだけでなく、映画上映やアートギャラリーとしても活用できます。

“かふえ&ホール WITH 遊”のホームページもご覧ください。

<http://cafewithyou.web.fc2.com/>

筆者が“WITH 遊”に着いたのは午前9時30分すぎ。皆さん準備作業に追われていました。中曽根さん・谷原さん・川上さん、そして受講者の皆さんとも再会できました。さらにきょうは松田道雄さんもおみせを出します。後ほどご紹介しますので、お楽しみに。

午前10時前、スタート前のミーティングです。谷原さんの進行で、きょうの実行委員長である西崎さんから挨拶があり、“かふえ&ホール WITH 遊”のオーナー・田辺さんの紹介もありました。なんとと言っても、田辺さんの協力なしでは、きょうの“だがしや楽校”はあり得ません。感謝です。



西崎さん

谷原さん



田辺さん

オープニングミーティングが終わる頃、山形県からの“南陽志立だがしや楽校”ご一行様が到着しました。

それでは、受講生によるおみせをご紹介しましょう。

今回は筆者（山口）が特に注目したおみせからご紹介します。

▼幼稚園児による手遊び教室

はじめに紹介するおみせは、筆者が最も注目した“現役の幼稚園児による手遊び教室”です。

おかあさんは「手遊びは、大人がやっても意外におもしろいです。道具は要りません。どこでもできます。人間と人間がいっしょにやって楽しいのが手遊びです。結構頭も使います」と教えてくださいました。さらに「手遊びは宴会芸にも使えることがわかりました。宴会芸は子どもと同じと思いました。宴会芸の原点は子どもの手遊びにあり」と付け加えました。



さて、先生となったお子さんの自慢げな表情・楽しそうな表情がとても印象的です。なんでもやる気満々だったそうで、1週間前から「だがしや楽校はまだなの。いつ先生やるの」と楽しみにしていたそうです。

筆者（山口）も手遊びには少々思い入れがあります。手遊びは人間の創造力・想像力を育むものです。しかし、中には、手遊びとは「小さな子どもが遊ぶもの」と決めつけられる人がおります。だから、大きくなっても手遊びをしていると、叱られたという経験を持っています。

手遊び教室のおみせは、まさに子どもから大人が学ぶ場でもある“だがしや楽校”を象徴する風景でした。

それから感心したのは、生まれてまもない赤ちゃんを抱えているにもかかわらず、“すぎなみ大人塾”に参加されたことです。「子育てが終わってからでは、いつまでも地域での活動はできないので、参加しました」とのこと。またひとつ大きなものを学びました。

▼健康ウォーク

数多くの“だがしや楽校”を拝見してきた筆者（山口）も、健康ウォークつまり散歩のおみせは、初めてです。受講生お二人によるおみせです。

参加者は地元の方と南陽志立だがしや楽校ご一行様です。



まずは小手調べに杉並クイズです。「杉並区の人口は？」などのクイズが出されました。その後は近くの公園で準備体操です。十分に体をほぐした後、いざ出発です。

行き先は、“太田黒公園”と“角川庭園 幻戯山房～すぎなみ詩歌館”の2カ所です。2カ所とも筆者は昨年12月に訪れていますので、今回の“健康ウォーク”は、断片的に取材しました。



準備体操



角川庭園を後にします



太田黒公園前を歩きます

さて、健康ウォークでは、山形組にとって歩くスピードが速かったそうです。これでわかったのが、山形つまり地方では車依存社会が深刻に進んでいることです。私の「近所へ行くにも車、中にはゴミを出すにも車という人がいます」の説明に、杉並の皆さん、ビックリされていました。これでは、歩くことで見えてくる地域の小さな財産が、見逃されてしまいます。人とのつながりの希薄化は、都会だけでなく、地方でも進んでいるのです。

▼セミナー「地域コミュニティについて」

セミナー・・・これまた数ある“だがしや楽校”の中でも、初めてのおみせです。

受講生Oさんによる“人口構造の変化と地域社会 作ろう！あたたかい絆！”と題しての約30分間のセミナーでは、人口減少や少子高齢化社会が進む中で、地域コミュニティ形成についてお話がありました。



これこそ自分の得意とする分野を「自分みせ」にして皆さんに伝えています。
つまり、“だがしや楽校”では、なんでもおみせになるのです。

▼手作りガラス作品

これも筆者（山口）が注目したおみせです。

ガラス作品と言いますと、職人の世界という思い込みがあった筆者でしたので「誰でも出来る」とお聴きして、とても勉強になりました。



杉並区高井戸東に“ブルーグラスアーツ”というガラス工房があります。そこで開かれている吹きガラス教室で勉強しています。工房には、炉があり、吹いたり、丸めたりしながら、作品を作っています。色づけ・模様付けすることもできます。教室には小学生も来ています。

きょうの“だがしや楽校”については「なかなか紹介する場がなかったので、きょうは発表できて良かったです。山口さんに聞いてもらえただけで嬉しいです」と感想を語られました。

▼ぐるぐるっと、糸巻きプロジェクト（カラフル糸まきガンジーさん）

お待たせしました。松田道雄さんのおみせです。

山形県村山市からのニット糸を使っての糸巻きプロジェクトです。この4月から山形に戻られるという松田さんは「山形をPRするためのおみせです」と意気込んでおられました。



▼お菓子の家

これも筆者（山口）が観た範囲ですが、“だがしや楽校”では初めてのおみせです。陶器のお家にお菓子を乗せるだけでいつでも作れる“お菓子の家”です。



「いつでも作れる」というのがコンセプトです。友だちが来た時でも、乗せるだけですぐ出せることにこだわりました。それで、土台までお菓子ですと、食べると無くなりますので、土台は陶器にしました。市販のお菓子でも良いですが、なるべく自然素材のお菓子にしたいです。

▼簡単！写真で絵ハガキプリント



世界旅行で撮影してきた写真を使い、絵ハガキにプリントしたものを紹介するおみせです。簡単にプリントできます。

▼手作りバラ

南陽志立だがしや楽校組で、遊びのおみせを出したのは、東北芸術工科大学大学院生の石沢さ

んです。ちぎった紙でバラを作りました。



◎交流風景

石沢さんのおみせをご紹介しましたので、ここで交流風景をまとめてご紹介します。



それぞれの年間講座で事務局を担っている
嶋貫さん(右から2番目)と中曽根さん(右端)



南陽から持ち込んだ甘酒を
振る舞っています

ほかにも南陽からは、お餅をはじめ、美味しい特産品のおすそ分けがありました。

この日は、栃木県教育委員会上都賀教育事務所の森山さんも見学に訪れました。森山さんは“だがしや楽校”終了後の反省会にも出席し、感想を話されました。(右の写真の左が森山さんです)



◎会津坂下からのおすそ分け

“金上いなほ祭り・だがしや楽校”を開いている会津坂下町からもたくさんのおすそ分けがありました。



会津坂下産のそば粉で作ったソバダンゴです。炭火で焼いて食べました。



昨日降ったばかりの雪が送られていました。もちろん、子どもたちは大喜びです。



店舗前広場は大勢の人で大にぎわい。この日の東京は、この冬一番の寒さだったこともあって炭火焼きの回りには、自然に人が集まりました。



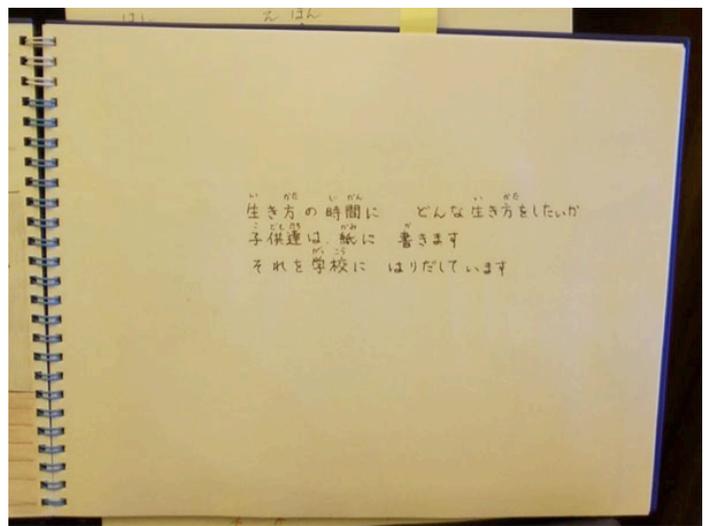
▼手作り絵本

「生き方学校」という題名の紙芝居式絵本を作りました。

絵本では、学校の授業のひとつである「生き方の時間」に、子どもたちがどんな生き方をしたいか紙に書くという授業を行いました。

絵本は受講生の方が“すぎなみ大人塾”で学んだことを基に作りました。





▼おみくじ

すぎなみ大人塾の“だがしや楽校”では、もはや定番になりつつあるおみくじです。



大吉が出るとみんなで手拍子です。それにしても、きょうはいつもより大吉がいっぱい出たような気が・・・。

▼古本屋さん

これが意外に人気で完売しました。



▼アンケート地図

どこから来られたかをシールで貼っていきます。



ところで、古本屋さんの写真に右に写っている方は、この寒い中、ず〜っと外にいて、通行人の誘導係をされました。まさに縁の下の力持ちです。寒い中、ご苦労様でした。

▼ムートン市場



▼あったか飲み物屋さん



▼手作り！あつあつお汁粉 & あったかにゅうめん



写真の左側が“お汁粉”、右側が“にゅうめん”のおみせです。

お汁粉は「寒いからお汁粉で・・・」というリクエストでおみせになりました。

にゅうめんは、お腹にたまるものということで、つい「にゅうめん」と口走ってしまったことから、「言ったからには責任持たないと」と思い、おみせにしたそうです。「山口さんとお会いできて嬉しいです。今回で3回目です。1回目は昼コース初日の6月18日でいっしょのグループになりました。2回目は阿佐ヶ谷です」と言ってくださり、寒さも忘れるほど嬉しくなりました。



甘党の筆者は、お汁粉からいただきます。炭火で焼いたお餅が入ったお汁粉は、あっさりした甘さですが、濃厚な味で、とっても美味しかったです。

具たくさんのにゅうめんは、ダシは利いていますし、冷えた体には最高です。こちらも美味しかったです。



炭火の周りでは、お餅を焼く風景や、子どもと川上さんが触れ合う風景も見られました。

《振り返り》

今回は、受講者の皆さんから出された感想をご紹介しながら振り返ることにします。

- 実際にやってみることで、人はつながるのかな、と感じました。
- あったかい食べ物に人は集まると実感しました。
- きっかけがあると、人は動きます。それが人間関係をスムーズにつくることができます。
- 地域に対する問題意識の高さを感じました。これが活動につながれば、と思いました。
- ソバダンゴやにゅうめんが好評でした。
- 通りすがりの人から「定期的にやってください」という声をいただきました。
- お汁粉では「家族といっしょに食べたいので、持ち帰りたい」という人もいました。
- お汁粉を「美味しいね」と言ってくれたおじいちゃんが印象的でした。久しぶりに食べたのでしょう。食べ物があると和みます。
- ネームプレートに書いてあった名前をきっかけにお客さんと話が弾み、教育問題まで話し込みました。
- 「すぎなみ大人塾って何ですか？」と尋ねた人に説明したら「良いこと、やっているんですね」という反応がありました。

以上が受講者の皆さんの感想です。

私も“すぎなみ大人塾・だがしや楽校福まつり”は、カフェという場所で、大人向けのおみせが多いというこれまでにない“だがしや楽校”の新たな可能性を実際に「みせ」てくださった素敵な“だがしや楽校”であったと思っています。

大人向けのおみせの中には、現役幼稚園児が先生になったおみせもあり、さらに印象深い“だがしや楽校”となりました。そのほか、健康ウォーキングやセミナーなど、これまで見られなかったおみせも登場しました。

カフェでの“だがしや楽校”も新たな試みと言えます。

そういう意味で、きょうの“すぎなみ大人塾・だがしや楽校福まつり”は“だがしや楽校”での新たな提案をいっぱい示されたという点でも高く評価できます。

店舗前広場は寒かったですが、食べ物のおみせや炭火焼きが行われたこともあって、おおいにぎわいました。一方、カフェ店内は、店舗前広場に比べてお客さんの数は少なかったですが、落ち着いた雰囲気での“だがしや楽校”でした。好対照とも言える2つの雰囲気でしたが、筆者は良かったと思います。

受講者の皆さんからは、振り返って反省点や課題も出されましたが、これも実践したからこそ体験できた財産です。

今回あらためて感じたのは、受講者1人1人がしっかりした考えを持っていることです。

今年度の“すぎなみ大人塾・昼コース”は、あと2回です。この2回では、きょうの“すぎなみ大人塾・だがしや楽校福まつり”をきちんと振り返り、新たな活動につないでいくための学びが続くことでしょう。

“すぎなみ大人塾・だがしや楽校福まつり”に関係したすべての皆様に感謝して、この報告をおしまいにします。

企画・制作・編集・文責
山口充夫
だがしや楽校コーディネーター